

丹波中休校中だより

みんなでピンチを乗り越えよう！

生徒向け通信：No.2 2020.3.9 丹波中校長：清水浩喜

大好きな3年生！『卒業式』せまる！

寿樹くん！アユミさん！純菜さん！美月さん！4人の卒業のために、着々と準備がすすんでいますよ！大好きな3年生が、胸を張って堂々と卒業していく姿を想像しながら、準備をすすめています。

さて、義務教育9年間を振り返って、どんなことを思っているでしょうか。職員室に貼ってある小学生の頃のきみたちの写真は、小さくてかわいらしくてやんちゃな感じがします。しかし、今、中学校を卒業しようとしているきみたちは、とつてもたくましく大人っぽく見えます。たった4人ですが、丹波中学校の最上級生として、生徒会を部活動を学校をリードし続けてきたその姿には、だれもが認める確かな成長をみることができます。よくがんばってきましたね。ありがとう！「卒業式は、最後の授業」といわれます。自分自身を見つめ直し、新たな目標に向かってください。後輩たちに、憧れの姿を見せてください。丹波中学校に我らあり！と、確かな足跡を残してください。1・2年生も、がんばりましょう。

全国の小中学校では、卒業式を実施しない学校もあります。また、状況によっては、様々な事態が考えられます。我々は、冷静にことを見つめ判断し、今できることを精一杯やるというスタンスを貫きましょう。最後の1日になった大好きな3年生との学校生活を、心から楽しみたいと思います。

あれから9年、風化させてはいけない！

2011年3月11日午後2時46分。あの時、きみたちは何をしていたらうか、何を感じていたらうか。そして、2020年3月9日、あれから9年、今あのときのことを覚えているらうか。何を思



っているらうか。当時、私は小学校6年生の担任。あの日は、校庭で体育の授業をしていた。「先生、地震です！」揺れを感じたと同時に、子どもたちが大きな声をあげた。いつもの地震と違うなど直感した。そして、大きな揺れが始まった。すぐに、校庭の中央に全員を集めた。校庭がうねり、プールの水がバシャバシャあふれた。電線は大きく揺れた。泣き始める子どもたちに、ここは絶対安全だと伝えた。生徒指導担当であったことから、すぐに職員室へ。

放送を流そうとするも、機械がやられた模様。その場にいた先生方に校内の児童の安全確認を指示し、自分もすべての教室を走ってまわった。「大丈夫か！」「はい！」校舎内の子どもたちは、意外と冷静だったことが記憶に残っている。しかし、このあと、大津波のニュースや映像、原発事故と続く驚きと恐怖の情報に震撼する。

死者不明者2万人を超えた未曾有の東日本大震災を、私たちは、風化させてはいけない。あれから9年。3月11日は、大切な卒業式であると同時に、あの日のことを思う日でもあるのだ。



災害ボランティアの経験を通して



2011年8月、かねてから夫婦で決めていたことだったが、夏休みを利用して、宮城県亶理町でボランティア活動を行った。(亶理町は、自主ボランティアを積極的に募集していた)

山梨を出発し現地に近づくにつれ、景色が一変していった。がれきの山、倒壊した電柱や家屋、屋根の上に漁船や自動車等々、目を覆いたくなるばかりの景色だった。「人間なんて小さいなあ。」と強く思ったことを記憶している。亶理町では、200名以上の死者不明者が出た。その捜索も行われていた。



立ち止まって、心から冥福を祈る。

ボランティアセンターに到着すると、既に多くの自主ボランティアの方々であふれていた。すぐに登録をすませ、グループ発表を待つ。発表が始まると、グループごとに集まって、その日の場所と活動内容、緊急避難についての注意事項を確認する。私たちが所属したのは、一時津波で埋まったが復旧可能な家屋を再建することだった。男性は床下ヘドロのかきだし、女性は床と壁の清掃となった。



現地に着くと、まずは緊急避難についての確認があった。余震が続いていたので、震度4以上の地震が発生した場合は、避難場所に向かうことが確認された。さあ、作業の開始だ。ヘッドライトをつけ、床下にもぐる。ヘドロを手でかきあつめ、麻袋に入れていく。半分くらいになったら、外に出す。この単純作業を、延々と続けた。昼休みは、全国から集まった自主ボランティアの皆さんと、いろんな話をした。東北といえど、夏は暑い。ヘドロと汗で、体から異臭が……。しかし、少しずつ変化していく家屋の姿に、うれしい気持ちもこみ上げてくる。

ああ、行ってよかった。やってよかった。夫婦で、自己満足に浸る。ちっちゃな夫婦だ。我らは、いつもこんなもんだ。行ってみる。やってみる。感じてみる。高度情報化社会だからこそ、こんなことを大切にしたい。

亶理町は、閑上に近く漁業の町でもある。しかし、漁港は壊滅状態であった。亶理町は、いちごの産地でもある。しかし、これもまたビニルハウスが全て崩壊状態であった。気になる学校は、ブルーシートで覆われていた。そんな中でも、

道路整備が始まり、人々は復興に向けて動きだしていた。仮設住宅が立ち並ぶ周りには、自主ボランティアのテントが乱立していた。そして、多くの人たちの思いが、何かを突き動かそうとしていた。

あれから9年、亶理町は見事に復興への道を歩んだ。漁業もいちごも再開した。ホームページは、明るい情報にあふれている。この夏、もう一度亶理町に行ってみたいと思う。

新型コロナの流行拡大により、3.11 追悼式が中止される。残念だ。当日は、卒業式。午後2時46分には、黙とうをしよう。あれから9年。忘れない。風化させない。

